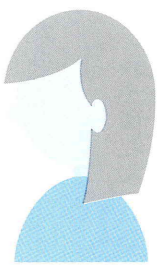
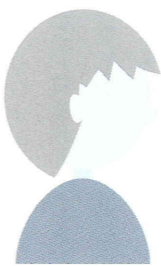


男女共同参画社会は コミュニケーションから始まる

川端美智子



今回は私たちが生きていく上で最も基本で何よりも大切なコミュニケーションについての話をしましょう。その前に、ちょっとだけ堅い話から入りますが、大切なことなので考えてみてくださいね。みなさんは男女共同参画社会ってどんな社会だと思いますか。法律に書かれてあるようなお題目、のようなことではなく、あなた自身の言葉で表現するとうつらうつらですか。

私は、この話をするときにも「あなたが望む未来の社会をイメージしてください。それが男女共同参画社会なんです。そこに何があればいいですか。どうなったらあなたは自分がイキイキと暮らし、働いていますか」と尋ねます。ある人は自分の子どもたちが健康で健やかに育ち学んでいる社会が男女共同参画社会だと言います。ある人は男女差別のない職場で自分の能力を精一杯発揮して働いているイメージだと言います。1人が一つ、100人いれば100の社会のイメージが重なります。1人が大切にしているものを他の99人も大切にできる、100のイメージを100人全員が大切に出来る、これが男女共同参画社会だと私は思います。お互いを大切にしたい男女が共に生きるために、持っているものを共有し、それを心から共感しあい、共にめざす社会作りの

ために働く。それを実現するために必要なことは何でしょうか。

その根底をなすものがコミュニケーションです。みなさんは、いつも「コミュニケーションは大切だ」と考えていますよね。私も生活や仕事をする上で、一番大切なのがコミュニケーションだと思っています。

コミュニケーションが上手い人は自分のことがわかっている人です。自分をより深く理解することで他者との関係作りがうまくいくようになります。コミュニケーション上手な人は自分と他者の生き方を重ね合わせることでできる、何倍もの喜びや深みを味わうことができる人生の達人であると言えます。

では、コミュニケーションが上手になるためのコツをいくつかお話ししましょう。

まず一つ目は、コミュニケーションの結果をしっかりと観察することで。私もかつてはそうでしたが、コミュニケーションは自分が相手に対して何を言うか、相手に適切に自分の思いを伝えることだと思込んでいました。ですが、本当のコミュニケーションはそれだけではありません。もっと大切なことがあります。私が話したことが

相手に伝わったその結果が私のコミュニケーションの結果なのです。自分の伝えなかったことが100だとすると、相手に30しか伝わらなかったら70は私の伝え方の問題なのです。私がこれだけ説明したのにあなたはわからない！と感じた時には私の伝え方に問題があると言えます。相手に受け取ってもらえるように相手の形に合わせてお渡しする。本当に渡せたかどうか観察し、フィードバックしてもらい必要があるのです。これを身近な人との会話で考えてみましょう。お互いの正当性を主張するだけだったり、相手を力任せに理詰めで屈服させたりするような形で関係性を作っていることはありませんか。

男女共同参画社会の実現をめざす活動を共にする人々のコミュニケーションが、互いに主張の優位性にこだわるようなものでは、大切な事柄の共有も、思いの共有もできません。まして一緒に活動したり働いたりすることなんてできないですよ。

二つ目は、相手の持つ世界観(フィールド)に入って会話をすることです。同時に自分の中にある価値観や行動規範の枠組みを知った上で、それに固執せず柔軟に変化させてください。私たちが今ここで見ているもの、聞

す。

三つ目に、相手を変えようと思っはあきません。だって、あなたも人に変えられたいじゃないでしょう。変えられるのは自分だけです。自分が変われば相手との関係性も変わります。あなたがいつも男女共同参画社会をイメージしてイキイキと生きていければ、周囲の人たちもイキイキしてきます。

これらのコツを意識するだけでもコミュニケーションは上手くなります。どうぞ多様性を大切にする男女共同参画社会を作るために、自分を知り、他者を知ることが出来るコミュニケーションの考え方を身につけてくださることを本当に願っています。



プロフィール

(株)ライフキャリアデザイン・アソシエイツ代表取締役
医療ソーシャルワーカー、男女共同参画センター・男女共同参画政策の企画、情報、支援の専門員を経て現職。
コミュニケーション、ファシリテーション、キャリア・カウンセリング、市民活動支援、男女共同参画が専門。
2007年4月に新潟県女性財団事業コーディネーターに就任。

川端美智子

Michiko Kawabata

いている音、感じていること、味わい嗅いでいるものは、自分の中であつて体験したこと、見たり、聞いたりしたことなのです。それを人は違う表現を使って言語化します。あるいはそこにくつついている様々な感情や切り取った情報も人それぞれ違います。つまり、同じものを見て体験していても、それぞれの受け取り方も、情報処理も、表現される言葉も自ずと異なっているのです。「赤色ってどんな色？」と問われると、私はお気に入りの漆と七宝焼きでできたペンダントをイメージします(深い赤色で美しい!)。でもあなたはきつと違う赤色をイメージするでしょうね。人は違っていて当たり前だという理由がここにあります。自分の経験したことが土台となって思考と行動が決まるのです。

私は、男女共同参画に関する地域活動をしている団体の方々に地域リーダーの心構えとスキルを身につけていただきたくて、新潟県女性財団をはじめ全国各地に行かせていただいています。ところが、地域リーダーの方々のなかで、自分の思いは他の人の思い、私の経験してきたことは他の人にも通用する(正しい)と思込んでいる方が少なくありません。その方が多くの経験値があり、決定権をもつてい

